



JRのレールが危ない！①

10月のある会議で保線OBより配られたレポートをご本人承諾の上、紹介したいと思います。一部小見出しをつけさせていただいたり、省略もありますがほぼ原文のままです。電車を動かすのは乗務員ですが、安全な線路は保線社員によって守られています。たまには線路のことも考えてみましょうか。

保線OBのつぶやき・・・

会社は技術不足を補うという大義名分で、様々な新しい機械（分岐器のつき固めが出来る機械、保線重機の拡充、検査装

置の小型化・軽量化）の導入、OA化（検査装置のデジタル化等）の邁進など、現場は新たな技術者（現場で仕事ができる人）育成のため大幅な人員補充

を行ったが、国労を弱体化し、多くの合理化施策を現場を無視して強行してきた。法令により容易に変更出来ない「線路巡回（見張り員と巡回者の2名）」の周期を線路全体の構造を強化したという理由で、3日に1回から1週間に1回に変更された。更に安全運行に支障ないと判断で、組合の力が弱まると比例して、2週間、3週間へと延伸された。

更なる機械合理化も！

今では通常列車の下部に、カメラとレーザー光線を当て、線路の状態の検知とデータ収集を行なう「モニタリング装置付き列車」を毎日走らせ、人による徒歩巡回は駅間は3ヶ月に1回、駅構内は2週間に1回（1級線のb・総武緩行、快速線、京葉線など）と、要員に一番影響のある線路巡回の周期延伸に会社は成功した。（現在は線路巡視という名称に変わった）

つづく

うたてつ ノススメ⑮

トンネル天国（ザ・ダイナマイツ）1967年11月）

トンネルぬけて トンネルぬけて
トンネルぬけて オンポロ列車で
田舎の町へ くりだそう YeYeYe

トンネルぬけて トンネルぬけて
トンネルぬけて お花畑の
可愛いあの娘に会いたいな YeYeYe

若い僕らの でっかいハートには
ドリーム、Yes、ドリーム、Yes
夢がいっぱいなさ Ah、Ah、Ah

60年代後半、雨後の筍の如く100以上のバンドがひしめき合っていたグループサウンズ（以後GS表記）のひとつ。後に村八分に参加するギターの山口富士夫が在籍していたことで有名なバンドのデビュー曲。

この曲は2つのバージョンがあり、シングル盤はスタジオミュージシャンによる演奏、アルバム収録バージョンは自分たちだけの演奏で、後者はワイルドなガレージ感が半端なく、エンディングにはギターによる「鉄道唱歌」も出て来て楽しい。

作詞は橋本淳、作曲は鈴木邦彦の当時の黄金コンビのひとつ。この頃の日本人はやたら〇〇天国という言葉が好きだったらしく、洋楽の日本語タイトルも原題を無視して「ダンス天国」「ロック天国」「口笛天国」等々、天国のオンパレードだった。この後日本でも「学園天国」「初恋天国」なんてのもあった。

歌詞の内容は、実に他愛のない能天気なもので、当時の若者たちの元気はつらつの様子が伺える。枠内歌詞は最初から間奏前まで。汽車に乗って遠くの街まで遊びに行くのがこんなに楽しそうなのは、普段仕事で先輩や上司にいじめられて・・・とか考えてしまう。トンネルの向こうには、明るいお花畑、可愛いあの娘や自由と夢と希望が待ってる、そんな情景や主人公の笑顔まで思い浮かべることが出来る。GSの鉄道ソングは、この他に3曲あり、全部紹介したいと思っている・・・間に合うかなあ。この時代の能天気な若者たちも、もうすぐ後期高齢者！！時の流れは残酷だああ・・・！！

昨年5月に行なわれた職場実態討論会では、「機械化により、時間も人もいらなくなったが、チェックに関しては最終的には経験と勘が物を言う。モニタリング車両でレールの傷や陥没も見つけられなかった」という報告もありました。